

令和4年度野々市市総合計画審議会 議事録

日 時 令和4年9月22日（金） 15時00分から16時30分

場 所 野々市市情報交流館カメラア2階 ホール椿

- 次 第
- 1 開会
 - 2 委嘱状交付
 - 3 市長あいさつ
 - 4 議事
 - (1) 会長及び副会長の選出について
 - (2) 野々市市第二次総合計画の概要について
 - (3) 野々市市第一次総合計画の総括について
 - (4) 野々市市行政改革大綱（第6次）の総括について
 - 5 その他
 - 6 閉会

出席委員 上野 弘子委員 榎本 俊樹副会長 笠間 悟委員 堅田 芳弘委員
北川 千里委員 北村 恒委員 米谷 義浩委員 澤村 昭子委員
鹿田 正昭会長 高瀬 寿彦委員 中村 昭一委員 初野 健二委員
原崎 ひとみ委員 東 伸明委員 藤田 雅顯委員 松岡 砂都美委員
棟野 章委員 明和 恵里委員 吉田 愛紗委員

欠席委員 石田 修委員

事務局 栗市長 山口副市長 中田総務部長 浅野地域政策部長
堤健康福祉部長 中藪建設部長 山下教育部長
中野秘書室長 荒木企画財政課長 木戸口企画担当課長 企画課職員
(窪課長補佐、岩崎主事)

1 開会

委員 20 名のうち、19 名が出席（うち 2 名オンライン）

会議概要の説明

資料確認

2 委嘱状交付

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から机上配付にて委嘱状を交付

委員、事務局の紹介

3 市長あいさつ

4 議事

(1) 会長及び副会長の選出について

会長：金沢工業大学 副学長 鹿田委員

副会長：石川県立大学 産学官連携学術交流センター長 榎本委員

(2) 野々市市第二次総合計画の概要について

事務局より説明

(3) 野々市市第一次総合計画の総括について

事務局より説明（資料 1-1、1-2）

<事前に委員より提出のあった質問・意見への回答>

東委員

今年度、子ども家庭庁創設が閣議決定され、すでに子ども政策の新たな推進体制の基本方針が示されており、令和 5 年 4 月より、「こどもまんなか社会」づくりに向けて本格スタートする。子どもの問題を一元的に取り組む項目について、第二次総合計画の直近改定時期に追加してほしい。

事務局（木戸口企画担当課長）

「こどもまんなか社会」づくりについては、今後、国から詳細が示されることとなっているが、市区町村では相談機関の整備などに努め、子育てに困難を抱えている世帯の支援を強化していくことになる想定している。国の方針等を考慮の上、必要に応じて、担当課で定める個別の計画や第二次総合計画の中間見直しに反映することを検討し、取り組みを推進していきたい。

吉田委員

SDGs にはたくさんあるが、強いて挙げるならばどれに力を注ぎたいか。また、大学と連携とはどの大学と連携しているのか。

事務局（木戸口企画担当課長）

SDGsの17のゴールのうち、総合計画の基本姿勢「市民協働のまちづくり」と関連が深い、17番目の「パートナーシップで目標を達成しよう」に力を注ぎたいと考えている。第二次総合計画に掲載している「施策とSDGs対応表」においても、すべての施策と17番目のゴールを紐づけており、行政だけではなく、市民、大学、企業と連携してSDGsを推進していきたい。

また、金沢工業大学とSDGsの連携協定を締結し、様々な小中学校での教育に取り組んでいただいている。また、タカラトミーとSDGs推進センターが共同で開発したSDGs人生ゲームも寄贈いただいたため、今後、ゲームを介してのSDGsの推進にも取り組んでいきたいと考えている。

<当日の質疑応答>

米谷委員

第一次総合計画の目標達成率85.7%という数字を市としてどのように評価しているか。これから第二次総合計画の推進期間に入り、もちろん100%達成できれば一番よいと思うが、どの程度まで達成することを目指していけばよいのか。

事務局（木戸口企画担当課長）

概ね7割達成できていればよいと考えている。達成できなかった項目については、課題を洗い出し、次期計画において引き続き取り組んでいきたい。

高瀬委員

資料1-1の「現状・課題を踏まえた今後の取組」に、「地域共生社会」という言葉が出てこない。地域共生社会の実現については、国の施策として打ち出されてから6年以上が経つ。しっかりと進めていくためにも、今回の総括の中で今後の取組の中に加え、次の計画に繋げていく流れをつくってはどうか。

事務局（木戸口企画担当課長）

総括に取り入れ、第二次総合計画の下で取り組んでいく。

(4) 野々市市行政改革大綱（第6次）の総括について

事務局より説明（資料2-1、2-2）

藤田委員

項目16の「石川中央都市圏での連携」について、交通関係の連携を検討する考えはあるか。

事務局（山口副市長）

石川中央都市圏で立ち上げている公共交通の法定協議会において、北陸鉄道から提案を受けたバスの上り下り分離について4市2町で検討を行っており、今年度末を目標に何らかの方向性を示す予定である。将来的には、連節バスを走らせるといったBRTや、路面電車のLRTといった次世代の交通手段についても協議していくことになると考えている。また、それぞれの自治体も個別の法定協議会を持っており、野々市市の協議会の実績としては、白山市とのコミュニティバスの相互乗り入れの提案・実現が挙げら

れる。公共交通については、自治体だけの枠ではなく、広域で運用していくことがより市民生活の向上につながると思っている。

藤田委員

白山市以外の近隣の行政から、「野々市市のコミュニティバスを乗り入れしてほしい」という要望が政治家の方から何度かあった、という話を聞いているが、その件について何か考えはあるか。また、運行スケジュール上、乗り入れは可能なのか。

事務局（山口副市長）

個別の案件についての回答は控えさせていただくが、そのような申し入れがあるということは事実である。本市のコミュニティバスは、「市役所」、「JR野々市駅」、「文化会館フォルテ」の3つを交通結節点として、乗り継ぎができるよう4ルートあるバスの到着時間の調整を行っているため、ルートの変更を検討する際には慎重な対応が必要となる。また、「シャトルバスのんキー」の延伸についても様々な要望があるが、直ちに要望に応えるというわけではなく、いろいろなご意見をお聞きしながら、市民生活の向上につながるものであれば前向きに検討していきたいと考えている。

鹿田会長

項目3「戦略的な人材育成」の実績値、達成率ともに0%となっている。金沢工業大学では、リカレント教育プログラムを盛んに提供しており、今回、加賀市が30名ほどの職員をAIやICT、DXに関する授業に参加させる取組を行っている。このような研修が「戦略的な人材育成」に当たるのであれば、ぜひ積極的に活用していただければと思う。

（議事（3）の内容）

藤田委員

第一次総合計画の施策の総括シートの施策2-1-1の中に「地域支えあいマップの作成数」という成果指標があるが、54の町内会全てにおいて作成できるようにと目標値を設定し、「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」においても同じ目標に向けて取り組んでいる。20町内会が作成済みという段階で、第二次総合計画には「支えあいマップ」の言葉が出てこないが、「地域福祉計画」も同様にこの取組について記載されないものと考えてよろしいか。

事務局（堤健康福祉部長）

市の健康あるいは福祉の総合計画である「地域福祉計画」及び「地域福祉活動計画」では指標として残している。第一次総合計画を策定した10年前には、「地域支えあいマップ」が高齢者を支える唯一の手段であると捉え、総合計画の目標値として採用したが、現在では、地域サロンやコミュニティカフェなどの地域の方々が主体となって運営している集いの場への活動支援など、支援の手段が多様になっている。第二次総合計画では、そうした手段を一つ一つ個別に掲載するのではなく、本来の目的や大きな方向性を示し、様々な方法で推進していくこととしている。

5 その他

鹿田会長による総括

第二次総合計画に定める目標を達成するためには、行政だけでなく市民との協働が不可欠であり、委員の皆様には、各団体や家庭において、それぞれの立場で第二次総合計画の推進に向けて尽力していただきたい。昨年末に第二次総合計画を答申した際に、世の中の動きが非常に速いため、恐れずに改善・改革をしていくことが必要であると市長に申し上げている。改訂の際には、この審議会での意見を反映することも重要になってくると思われるため、今後ともご協力いただきたい。

6 閉会

副市長あいさつ

野々市市でのSDGsの取組の紹介